

祖父と盲導犬ロボットと税金

西武学園文理中学校

一年 上田 壮一郎

僕の祖父は、四十九歳の時に病気で両目とも見えなくなり
ました。杖や人の肩などの支えるものがないと、外では安全
に歩くことができません。僕は、祖父と年に二回ほど旅行に
行きますが、祖父の手を僕の肩に置いて誘導をしています。
近くをトラックが通り過ぎるたびに、祖父の手にぐっと力が
入るのが肌で感じとれます。毎回、僕が学校や家族の話をし
て、祖父は最近のニュースなどについて話してくれ、とても
楽しい時間を過ごします。しかし、祖父は僕の顔を一度も見
たことはありません。

僕は、小学一年生の頃からロボット教室に通っていて、祖
父や、他の目の不自由な方がより安全に楽しく生活できるよ
うになるのに役立つ盲導犬ロボットを作りたいという夢を持
つようになりました。別れるのが辛くなるから盲導犬は飼わ
ないという祖父に、

「おじいちゃん、僕が将来おじいちゃんの一生の友達になれ
る盲導犬ロボットを作ってプレゼントしてあげるね。」

と言ってみた時にとっても喜んでくれたことは、今でも忘れ
られません。

僕は今回の租税教室で、税金が一番多く使われているのは
社会保障だということを知りました。祖父も、障害者年金を
いただいたり、杖などの補装具費や住民税の控除を受けたり、
薬や医療費を無料にしていたりしており、その一部は
税金でまかなわれていることを知りました。
「働きざかりの時に働けなくなると収入がなくなってしまう、
これからどうしようかと悩んだけれど、障害者年金や、いろ
いろな控除を受けられると知って本当に助かったよ。」
と祖父が話してくれました。

祖父が税金に助けられているのも、税金をきちんと払う人
がいてこそだと思います。僕の父は、小さな会社を経営して
いて、所得税や住民税だけでなく、法人税や関税など様々な
種類の税金を払っていることを、いつも僕や妹に自慢してい
ます。僕の夢を応援してくれており、

「小さくてもいいから自分自身に誇れる事業を興して、税金
をたくさん払い、社会にこうけんできる大人になりなさい。」
と言ってくれます。僕はそんな父を誇りに思います。

日本眼科医学会の発表によると、目の不自由な方は年齢とと
もに増えていき、日本の視覚障害者の半数は七十歳以上、六
十歳以上で合計七十二パーセントを占めているそうです。こ
れからますます進む少子高齢化社会は、目が不自由なお年寄
りが増え、税金を払う人は減るといふ社会だと思います。僕
は、盲導犬ロボットで目の不自由な方の役に立ち、税金もし
っかりと払って、二つの意味で少子高齢化社会にこうけん
できる人間になりたいと強く思いました。